

ザンビア共和国南部州の異なる生態学的環境に暮らす
成人男女の栄養状態の変動
—16ヶ月間の身長、体重、BMI—

山内太郎, 今小百合
北海道大学大学院保健科学研究院

要旨

昨年度のプロジェクト報告書において、下部平原地の居住者（成人男女）は中間傾斜地および上部平原地居住者に比べて身長が高く、また体重も重いことを報告した（Yamauchi, 2009）。本稿では2007年11月から2009年2月に至る、のべ16ヶ月間の身体計測データを元に、生態学的に異なる3地域（上部平原地、中間斜面地、下部平原地）に居住する成人男女の体重とボディ・マス・インデックス（BMI = 体重[kg] ÷ {身長[m]}²）の月ごとの変動について報告する。

性、地域によらず、体重とBMIに共通した変動パターンが見出された（減少→増加→減少）。この結果は、地域住民の体重およびBMIは、気候変動（とくに降雨量）や農業サイクルと密接に関係していることを示唆している。さらに興味深いことに、男性と女性の体重およびBMIの変動パターンは酷似していたことが分かった。同じ地域に居住する成人男女の食物摂取や身体活動のパターンは類似している可能性が示唆される。

冒頭で述べた昨年度の報告書の結果と同様に、16ヶ月間通してみても下部平原地に暮らす成人は、男女ともに他の2地域の男女より体重が重かった。しかし、下部平原地の男性のBMIは3地域で最低値であった。これは同男性の身長が3地域では一番高かったためである。またBMIの性差において、3地域で特徴的な違いがみられた。下部平原地ではBMIの性差は3地域の中で最も大きく、中間傾斜地ではBMIの性差は縮まり、上部平原地では性差はほとんどみられなかった。3地域では性による労働内容や分業の程度が異なっているのかもしれない。食物の利用可能性や食糧の分配の性差などもBMIの性差に影響を与えている可能性が考えられる。

本研究で見出された興味深い知見の背景にあるメカニズムを解明するために、体重およびBMIと月ごとの気候変動（降雨量）や食物生産・消費の変動との関係について探求する必要がある。さらに、地域住民を対象として、食事調査や行動観察、エネルギー消費量測定を実施することが望まれる。

文献

Yamauchi T (2009) Growth and nutritional status of children and adults living in contrasting ecological zones in the Southern province of Zambia, FY2008 FR2 Project Report, 41-49.